

自殺者0人の社会を目指して part.6 前編

自殺対策で一番難しいのは、20年前に比べ自殺者数が「 \times 」倍も増えた10代・20代です。なんでこんなに増え続けており、どうすれば解決できるのでしょうか。ひとつの解決方法を述べます。それは「思いやりあふれるネット社会・現実社会の構築」です。ここ数年でネットいじめが爆発的に増えました。多くの人が、特に傷つきやすい若年層の方たちが被害にあっています。酷いいじめを受け生きている事が辛くなって、自殺する人もいます。子供の悩み相談を受ける仲間のNPOと話す、平成24年にネットいじめに関する相談が、前年より2倍に増えたとの事です。米国立衛生研究所や他の日本の研究者によると、従来のいじめよりネットいじめの方が自殺願望につながる事の事です。いじめにより屈辱を与えられることは昔からありました。けれども、ネットでの屈辱というのは広がっていくし、永遠に残ります。昔は恥をかいてもせいぜい学校や町といった規模の話でした。それが今ではネット社会全体、何百万もの人が罵詈雑言を浴びせてきたりします。こうした辱めは誰でも見る事ができ、傍観者の数に上限はありません。ここ20年で、私たちはネットでも現実世界でも屈辱を助長しています。まとめサイト等を筆頭にたくさんメディアが屈辱を取り扱います。それで抵抗を感じなくなり、ネットいじめが起ります。こうして「屈辱の文化」ができてしまいました。この屈辱の文化では、恥をかかせる事に値札がついており、恥をかかせる事で利益を得る事ができます。人にクリックさせる事でお金になります。激しい恥ほどクリックされ、広告収入がアップし、金儲けができます。これは危険な流れです。こうしたゴシップを見れば見るほど、同情心が薄れ、その結果、もつと見てしまうという悪循環です。このような「さらし行為」は流行れば流行るほど容認される事になり、ネットいじめがさらに増えます。…この状況を変えるにはどうすれば良いでしょうか？紙面の都合もありますので、次回、改めて述べます。「生き心地の良い社会」を話し合ってください。個々人の想いが集まれば、良い社会が形成されます。今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成29年3月6日

増田好秀